

常任委員会行政視察報告

今後ますます重要な支援センター

宮代町地域包括支援センター

平成22年10月22日、宮代町地域包括支援センターの活動を視察した。宮代町からは議長、教育福祉産業常任委員長、保険課長など計8名が出席した。宮代町議会会議室で現状の業務活動・実績の説明を受けた。

平成22年6月現在、埼玉県の地域包括支援センター設置数は23。そのうち直営が42、委託が191。松伏町では委託形態をとっているが、宮代町は直営で、保健師、社会福祉士、主任介護支援職員

文教民生常任委員会



宮代町地域包括支援センター

士、主任介護支援職員の名1名と社会福祉主事2名の5名体制で活動している。平成20年度からはセンター職員と民生委員が同行し、高齢者実態把握訪問を年500軒行っている。また、町広報誌で地域包括支援センターの活動を積極的に紹介している。

地域包括支援センターは、地域住民の心身の健康の保持と生活の安定のために、必要な援助を行うものである。高齢化社会にとつてますます重要であると再認識した。

松伏町に大型の「道の駅」は厳しい

道の駅童謡のふる里おおとね

平成22年11月5日、加須市の「童謡のふる里おおとね」を訪ね、道の駅の設立経過と運営状況を学んできた。

ここは、平成10年に旧大利根町が設置し、(株)米米倶楽部が管理運営を担っている。一方、売り上げは、ピーク時の3億2千万円から、昨年2億8千万円に減っている。原因は、競合施設の増加や高速道路のETC割引で遠隔地に観光客が出かける傾向が来場者減につながったと説明があった。

視察後、松伏町に「道の駅」を設置・運営ができるのか、委員間で意見交換を行った。設置に必要な財政問題、農業従事者の高齢化、後継者不足なども考慮して設置を考

総務産業常任委員会



経営内容の説明を受ける

現在ある農産物直売所の支援を通して地産地消を進めるのが現実的であるう、などの意見が多く出された。